

彼女との12ヶ月

sin—shin

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

潮とのなんでもない1年間のお話です

目次

【潮編】

1

【大鷹編】

31

## 【潮編】

【1月】

潮「提督、あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いします」ペコリ

提督「おうよろしく」コタツヌクヌク

潮「……新年の挨拶ぐらいちゃんとしたらどうですか？」

提督「いやだつて寒いじゃん」

潮「初雪ちゃんじゃないんですから、ちゃんとコタツから出てください。怒りますよ？」

提督「ちえっ……わかったよ」イソイツ

提督「……あけましておめでとう潮。今年もよろしくな」ペコリ

潮「はい、よろしく願いします」ペコリ

提督「……もういい？」

潮「はあ……。もういいですよ」

提督「ふうやれやれ。……めんどくせえ嫁さんだなあ……」ボソツ

潮「何かいいましたか？」

提督「イエナニモ」

潮「はあ……。後で曙ちゃんたちと初詣に行くので支度はしといてくださいね？」

提督「やだよめんどくせえ」

潮「しといてくださいね？」

提督「だから嫌だつて」

潮「しといてくださいいね？」

提督「……ういっす」

潮「それじゃまた後で」

提督「あ、潮ちよつと待って」

潮「はい？」

提督「着物、よく似合ってるぞ。惚れ直した」

潮「っ!?!へ、変な事言ってるで早く支度してくださいね!!それじゃ!!」ボタン

提督「ふふ。やっぱり根っこは変わらねえなあ」

【2月】

潮「……………」

提督「……………」ツクエコンモリ

提督「……………多くね？」

潮「多いですね…」

提督「俺チョコ好きだけどさあ…流石にこの量は…」

潮「でも返すわけにも行きませんよね？」

提督「そうなんだよ…」

潮「チョコレートフォンデュにでもしますか？」

提督「多分受け取った感じクツキーの方が割合高かったから無理だ  
と思う…」

潮「じゃあどうするんですか？」

提督「赤城に…」

潮「その中赤城さんのも入ってますよね？」

提督「……………腹括るか」

潮「…無理はしないでくださいね」

提督「おう…」

潮「でも…あれですね」

提督「うん？」

潮「義理チョコばかりですね」

提督「そりやうちの艦娘の性格考えりや必然だろ」

潮「そう言えばそうですね。うちの金剛さんとか、loveよりも  
likeですもんね」

提督「かなり特殊な例らしいぞ。あ、でも本命もいくつかあったぞ。  
例えば最初にくれた榛名とか」

潮「……………そうですかよかったですね」

提督「なんか不機嫌だな？」

潮「別に何でもないです」

提督「……………嫉妬してんのか？」ニヤリ

潮「自惚れないでください。撃ちますよ?」カチャ

提督「艀装はやめろ。マジでシャレにならない」

潮「まったく…」

提督「からかったのは悪かったよ。でも、本当に嫉妬してないんだとかなり傷つくんだが…」

潮「……その」

提督「?」

潮「みなさんが提督にあげるのは個人の自由だからいいんですけど……」

潮「潮が最初じゃなかったんだなって思っただけです…」

提督（それを嫉妬というんだがなあ）

提督「まあ確かにお前は最初じゃなかったな。でも…」

潮「…?」

提督「どんだけ本命もらっても、俺は嫁さんである潮からのチョコが一番嬉しいぜ?」

潮「提督…」

提督「まあ榛名ともケツコンしてるんだけどね!」

潮「台無しです」

【3月】

提督「3月かあ…」シミジミ

潮「どうしたんですかいきなり?」

提督「いや、昔を思い出してたんだよ。ほら、今って卒業シーズンだろ?」

潮「ですね。ということは学生時代を?」

提督「うん。中学の友達とか元気にしてるかなって」

潮「連絡はとってないんですか?」

提督「そうだねー。高校入ったら疎遠になっちゃってさ」

潮「そうですか…ってあれ？提督、軍の学校出身じゃないんですか？」

※軍の学校は中高一貫という適当な設定

提督「あれ？言ってなかったっけか」

提督「俺、一般公募で採用されたんだよ」

潮「そうだったんですか。因みに以前は何をしてたんですか？」

提督「普通に大学生だったよ。2年の時に採用されてそのまま提督になった」

潮「ということは中退しちゃったんですか？」

提督「まあな。特別措置として学位は貰えたけど」

潮「そうですか…寂しくありませんでした？」

提督「何が？」

潮「その…大学の友達と別れちゃったこととか」

提督「全然。むしろ嬉しかったよ」

潮「え？どうしてですか？」

提督「だって俺友達いなかったもん」

潮「あつ…(察し)」

提督「おい、何を察した」

潮「いえ、別に何も」

提督「つたく…別に全くいなかったわけじゃなかったよ。数人はいたさ。でも…」

提督「俺は遠くから通っててさ。放課後とか遊べないし、サークルにも入る時間がなかったんだ」

潮「だから付き合いが薄かった、と」

提督「そ。付き合いが薄けりゃ別れも悲しくないしな」

潮「つまり退屈な大学生活から逃げるために提督になった、と」

提督「そうs…ちげーよ！」

潮「じゃあなんで提督になったんですか？」

提督「それは…」

潮「就職先の確保？」

提督「…違う」

潮「まさかハーレムを夢見て…」

提督「違…わないけどその頃はまだまだ」

潮「……………」ケイベツノマナザシ

提督「おいやめる。そんな目で俺を見るな」

潮「はあ…まあいいです。提督がこんななのは今に始まったことじゃないですし」

提督「お前俺をなんだと思ってるの？」

潮「サボり魔のセクハラ男」

提督「……………何も言えねえ」

潮「まったく…つてもうフタヒトマルマルじゃないですか！」

提督「えっ!?!…マジだ。…今日はもう終わりでいいんじゃない？」

潮「ダメです。明日提出の書類があるんですから」

提督「はあ…めんどくせえ…」

潮「潮も手伝いますから」

提督「さすが潮さんマジ天使！」

潮「はいはい。さっさと終わらせますよ」

—数時間後—

提督「やつと終わったー!!」ノビー

潮「日頃からやつとけばこんなにはならないんですけどね」

提督「それについてはノーコメントで」

潮「まったく…それじゃ私部屋帰りますね」

提督「おう。明日はゆつくりでいいからな」

潮「そうさせてもらいます。ではおやすみなさい」

提督「おやすみ」

扉バタン

提督「…さて俺も寝ますか」

提督「……………」

『じゃあなんで提督になったんですか?..』

提督「お前に一目惚れしたから、なんて言えねえよな」フツ



【4月】

提督「飲めや歌えやどんちゃん騒ぎー…」

潮「節度は必要だと思えますけどね」

提督「いいじゃねーか花見の時くらい。たまには羽目を外すことも必要さ」

潮「…はあ」

提督「それに、こういう酒の席ではあいつらがいないと盛り上がりねーしな」

潮「確かにそれは一理ありますね。…でも提督お酒飲んでないじゃないですか」

提督「あ、気づいちゃった？」

潮「この距離でお酒臭くありませんからね」

提督「なるほどね」

潮「なんで飲まないんですか？」

提督「んー…別に飲めないわけじゃないんだけどさ、単純に美味しく感じないのよね」

潮「ビールとかはわかりますけど、カクテルとかもですか？」

提督「うん。これだったらジュースの方が美味しいなーって思うんだ」

潮「男の人でお酒飲めないのって珍しいですね」

提督「ああ。だから祝いの席とかで俺だけジュースってことも結構ある」

潮「ちよつと恥ずかしいですね」クス

提督「別にいいんだよ。不味いものを無理して飲む必要なんてねーんだから。ましてや酒なら尚更な」

提督「そういう潮はどうなんだよ？」

潮「潮もあんまり得意じゃないですけど…甘いカクテルとかは美味しいと思いますよ？」

提督「ふふっ」

潮「む、なんで笑うんですか。自分はお酒すら飲めないのに」プクー  
提督「ああ悪い悪い。いやなに、潮も女の子なんだなあって思った

だけさ」

潮「どういう意味ですか！」

提督「単純な話だよ。艦娘として…人として人生を謳歌してくれて嬉しいんだ」

潮「え…？」

提督「俺はさ、お前ら艦娘に人間らしい人生を送ってほしいんだ。」

提督「お前らはどこまでいっても兵器だ。それは変わらない事実だよ。でもさ…」

提督「お前らは口をきかない物じゃない。心があり、感情がある」

提督「だからさえつと……ごめん、途中で訳わかんなくなっちゃった」

潮「台無しです…でも、何となく提督の言いたいことは伝わりました」

提督「そっか。そりゃよかった。」

潮「慣れないことはするもんじゃありませんね」

提督「ほんとな。俺も酔いが回ってきたか？」

潮「お酒飲んでないのにですか？」

提督「場酔いってやつかな」

潮「場酔い…」

潮「……」ピトツ

提督「んーと…潮？」

潮「なんですか？」

提督「なんでもくつついてきたの？」

潮「場酔いってやつです…」ギユツ

提督「場酔いってレベルじゃ…」

潮「提督は…」

提督「？」

潮「こんな潮は、キライですか…？」ウワメツカイ

提督「…あーもう！嫌いなわけあるか！どんなお前でも好きだよ！」ギユツ

潮「キヤー♪」ギュー

提督「つたく…今夜は寝かさねえからな？覚悟しろよ！」  
潮「お手柔らかにお願いします♪」

【5月】

提督「……………」ボー

潮「提督、ぼーっとしてないで仕事してください」カリカリ

提督「うん…そうしたいのは山々なんだけど…」

提督「なんかやる気でねえんだよな…」ノビー

潮「五月病ですね、それ」

提督「やっぱりそうかい。んじゃ病気なんで早退を…」イソイソ

潮「五月病は病気じゃないですよ」ニツコリ

提督「…ダメ？」

潮「ダメです」

提督「どうしても？」

潮「はい」

提督「……………じゃあ」

提督「強行突破だな!!」ダッ

潮「甘いですよ」ポチッ

鎮守府の扉（実際にはありません）↓サイドボード

提督「ぐほあっ!!」ビターン

提督（こいつ…即座にドアの場所をダンスに切り替えやがった…）

潮「まだまだですね」フツ

提督「この野郎…」

提督「だが俺は諦めねえ！」ダッ

潮「無駄です」ポチッ

青カーテンの窓↓鉄格子の窓

提督「はがあ!!」ゴン!!

提督「痛つてええええ!!!」ゴロゴロ

提督「お前鉄格子はダメだろ!!」ゴロゴロ

潮「自業自得ですよ」カリカリ

提督「ぐう…くそう…」ガクッ

潮「早く机戻ってください」カリカリ

提督「最近俺の嫁が冷たすぎてやばい…」シクシク

潮「はあ…もう…」ガタツ

提督「…?」

テクテク ポスン

潮「ほら…こつち来てください」ポンポン

提督「え…?」

潮「早く」

提督「お、おう…」

スタスタ ボスン

潮「ここ、頭乗せてください」トントントン

提督「お、おう…」

提督（なんかよくわからんが膝枕されてる…）

潮「…すみません、鉄格子はやりすぎました」

潮「頭、痛かったですよね…」ナデナデ

提督「…いや、俺が悪い。潮には何の非もないよ」

潮「でも…コブになっちゃってます…」

提督「バチが当たったんだよ。お前も言ったろ? 自業自得だって」

提督「だから気にするな」

潮「でも…」

提督「ああもう! じゃああと30分ぐらい膝枕してくれ。それでお

互い言いつこなしな! OK!」

潮「は、はい!」

提督「つつたく…」

—約30分後—

提督「…うし、膝枕終わったし仕事再開すつか」

潮「でもまだコブが…」

提督「痛みは引いたし平気だよ。それに…」

潮「?」

提督「なんか膝枕してもらったらやる気出てきてさ。ありがとな」

潮「提督…」

潮「じゃあ…仕事終わったら、また膝枕しちゃいます！」  
提督「お、そりやありがたい。ついでに耳かきもつけてくれるか？」  
潮「ふふつ。はい」  
提督「よしや!!さーて、やりますかね！」

提督「ところで潮の分は？」  
潮「膝枕の前に終わらせました」  
提督「しつかりしてんなあ…」

【6月】

ザーザー

提督「…梅雨だなあ」

潮「梅雨ですねえ…」

提督「なんかさ、雨の日ってテンション上がらない？」

潮「いえ全く」

提督「おう即答か。…じゃあなんで嫌いなんだ？」

潮「一番はジメジメするからですね。そのせいで髪の設定に時間がかかっちゃうんです」

提督「女の人は大変だよな…って、お前ストレートじゃん」

潮「一部分がとんでもないことになるんです」

提督「…あつ、確かにアホ毛がいつもよりゼンマイに近くなってる」

潮「いつもよりってなんですか。…これでもかなりいいほうなんですよ?」

提督「マジか」

潮「朝起きた時はこれが5〜6本に増えてますから」

提督「何それ超見たい」

潮「朧ちゃんや曙ちゃんが黙ってませんよ」

提督「どして？」

潮「2人の方が酷い髪型になるんです。他人に見せられないレベルで」

提督「ボー口はわかるけどボノまで？」

潮「ええ。まあ梅雨の時だけですけどね。普通の雨の時はそんなことならないんですが」

提督「ふーん。まあ朝っぱらから暴力はゴメンだし、諦めるかね」  
潮「そうしてください。…そういう提督はなんで雨が好きなんですか？」

提督「俺か？昔は部活が休みになったりするから好きだったんだ」

提督「でも今は皆が出撃しなくて済むから、かな」

潮「提督失格ですねそれ」

提督「まーな。でもま、お前らが危険な目に遭わなきゃそれでいいよ」

潮「ふふつ。優しいですね」

提督「お、なんだ？惚れ直したか？」

潮「いえ全く」

提督「ちえつ。なんだよ」

潮「…話はちよつと変わりますが、提督は雨に打たれるのは好きですか？」

提督「なんだその質問は」

潮「いいから答えてください」

提督「…：ちよつと変かもしれんが、シャワー浴びてる感あってまあ好きだぞ」

潮「そうですか…：では提督、窓の外を見てください」

提督「は…？外って…」

イイアメダネ ポーイ！ イツチバーン！

提督「あいつらまたやってんのかよ!？」

潮「ということであとは任せました」

提督「いやお前も来いよ!？」

潮「雨に打たれるのは嫌なんで」

提督「あーもう！じゃあ鳳翔に替えの服頼んどけ!」ダッ

潮「行ってらっしゃいです」フリフリ

提督「ちきしよー!」ドタドタドタ

潮「相変わらず騒々しいなあ…」

潮「……」

『お前らが危険な目に遭わなきゃそれでいいよ』

潮「提督失格。でも、旦那様としては十分すぎです」ニコ

オマエラナカハイレー！ キヤー！ ポーイ！

潮「さてと……あ、鳳翔さんですか？ちよつと替えの服を……」

〔7月〕

提督「おー…」

潮「すつごく綺麗ですね…」

提督「夜は雨だって言ってたのになあ」

潮「雲ひとつない綺麗な夜空ですね」

提督「まあ今回は外れてくれて良かったな。おかげでこんなに綺麗な天の川が見れたんだから」

潮「そうですねえ…」

提督「しつかし七夕ねえ…」

潮「織姫と彦星が一年に一度会える日、ですね」

潮「今頃天の川の上で再会してるんでしょうか…」

提督「かもな。…なあ潮？」

潮「はい？」

提督「もし恋人と一年に一度しか会えなかったらその日はどうする？」

潮「ベタな質問ですね」

提督「いいだろ別に。で、どうなんだよ？」

潮「うーん……とにかくその日を目一杯楽しみますね」

提督「具体的には？」

潮「まあ、デートして、一緒にご飯食べて、一緒に寝る…感じですかね」

提督「なんというか、ありきたりな答えだな」

潮「む。なら提督はどうなんですか？」

提督「俺か？まあ一日中セツク○だろうな」

潮「最低です」

提督「いやいや、俺かなり真面目に答えてるぜ?」

潮「そのどろろが真面目なんですか」

提督「考えてもみろよ。一年中浮気もできず、相手の声を聞くことすらできないんだぜ?」

提督「そんな2人が会うんだもの。肉体的接触で1日終わんだろ」

潮「ぐっ……一概にないとは言いきれない……」

提督「……まあ、昔ならともかく現代ならSNSがあるしそんなことにはならんと思うけどな」

潮「そ、それもそうですね!じゃあはい!この話はこれでおしまいということぞ!」

提督「お前……」

潮「はいおしまい!別の話しましよ!」

提督「はあ……まあいいけどさ。じゃあ潮、七夕で思い出したんだが」

潮「何でしょう?」

提督「短冊、もう書いたか?」

潮「え?あー……そういえばまだですね……」

提督「んじゃちやうど良かった。俺もまだだし、今から一緒に書きに行こうぜ」

潮「いいですね。行きましょう」

提督「んーと、よし書けた」

潮「潮も書けました」

提督「しっかしこうして見ると色々願い事あるな」

潮「本当ですね。あ、これ清霜ちゃんのだ」

『戦艦になりたい! 清霜』

提督「安定だな。お、こっちは長門だ」

『航海安全 長門』

潮「長門さんらしいですね」クス

提督「本当だな。ん……これ大井つちか?」



『北上さん C・P・L』

潮「まあ、そうでしょね…」

提督「本当にあいつはブレないなあ…っつかもう手に入ってる」

潮「あはは…。あれ？これは…誰なのでしょう？」

『バニースーツ 昇竜拳』

提督「んー…あ、俺わかった」

潮「ほんとですか？」

提督「うん。まあ本人の為に言わないけど」

潮「気になりますけど…仕方ないですね」

提督（淀ちゃん…っやっぱり欲しかったのね）

提督「…ん？なんかここ密集してるな」

潮「本当ですね。全部裏返って…」ピラ

『胸部装甲 RJ』

『胸部装甲 ズイズイ』

『胸部装甲 玉子』

『胸部装甲 タウイ』

『胸部装甲 ミサト』

提督「……………」

潮「……………」

提督「……………短冊飾るか」

潮「……………そうですね」

提督「これでよし、と」

潮「潮も終わりました」

提督「うし、んじや中戻るか」

潮「そうですね」

提督「…そういや潮はどんな願い事書いたんだ？」

潮「『みんな無事でいられますように』って書きましたよ。提督は？」

提督「俺も似たようなもんだな」

潮「珍しいですね。提督が欲望に忠実じゃないなんて」

提督「どういう意味だよ」

潮「そのまんまですよ。セクハラスケベ提督」

提督「こいつ、言ったなー!」

潮「きゃー♪助けてー♪」

提督「待てコラー!」

『みんな無事でいられますように 潮』

『みんなが笑っていられますように 提督』

ピラ

『提督のそばにずっといられますように』

『潮のそばにずっといられますように』

【8月】

ザザーン… ザザーン…

提督「……………」ボー

潮「大変そうですね」ストーン

提督「そう思うなら代わってくれよ」

潮「嫌です。じゃんけんで負けたんですから文句言わないでください  
い」

提督「ちえつ。こんなことなら負けたやつが交代制にしなきゃよ  
かった」

潮「自分でルール設定してたじゃないですか」

提督「うるせえ!まさか俺の1人負けになるとは思わなかったんだ  
よ!」

潮「ものすごい逆ギレ!」

提督「はあ……………」

潮「不幸艦の皆さんが参加してれば結果は違ったかもしれませんけどね」

提督「まあそうだろうな」

潮「提督はその辺しっかりしてますよね」

提督「ん…そんな事ねーよ。単純にほぼ確定した未来なんて面白くねーと思ってるだけだ」

提督「人生何があるかわからない…だから面白い！…だろ？」

潮「ジャンポケさんですか」

提督「おっ、よく分かったな」

潮「だって提督、よく動画見ながら寝落ちしてますから」

提督「ああ…。つてか、お前いつまでいんだ？早く遊び行つてこいよ」

潮「あら、お邪魔でしたか？」

提督「んなことないけどよ。七駆のみんなと遊ばなくていいの？」

潮「遊んできましたよ？ただ潮は疲れたので休憩しにきただけです」

提督「そか。…はあ。俺もみんなと遊びたかったな」

潮「それは…まあ、ご愁傷様です。…因みにどんな遊びを？」

提督「高雄の胸にわざとボール当てたり、むっちゃんに日焼け止め塗つたり…」

潮「クソみたいな欲望丸出しじゃないですか」

提督「うっせ。男のロマンなんだよ」

潮「はあ…未然に防いで本当によかった」

提督「まあいいけどさ…ところで潮？」

潮「なんですか？」

提督「蜃気楼かな？俺、あそこで赤城がバカ食いしてるように見えるんだが…」

潮「…奇遇ですね。私もついさつき気づきました」

提督「…行くか」

潮「そうですね…」

コラアカギイー!! アカギサン!!

【9月】

提督「お、きたきた」

潮「遅れてすみません！待ちましたよね…？」ハアハア

提督「うんにや、俺も今来たところだよ」

提督（1時間前まで約束を忘れてたことは黙つところ）

潮「そ、そうでしたか…」

提督「それに遅れたっていつでも5分ぐらいじゃん。事前に連絡もしてくれまし」

潮『すみません提督、少しだけ遅れそうです！』

提督『ん？……！そ、そうか。焦らずゆっくり来いよ』

潮「それでも遅れたことは事実ですから」

提督「堅いなあ。まあいいけどさ。んじや行こうぜ」カランコロソ

潮「あ、ちよつと待ってください！」ガシツ

提督「あん？」

潮「……手」

提督「ああ…はいよつと」ギユツ

潮「えへへ…それじゃ行きましょつか！」

提督「ああ」

提督「とりあえずは腹ごしらえか」

潮「そうですね。何から行きますか？」

提督「うーん…まあ適当に回ろうぜ」

潮「了解！」

潮「提督、齒に青のり付いてますよ」クスクス

提督「そういうお前こそついてんぞ」

潮「え、どこですか？」

提督「そつちじゃなくて…ああもう。こつちだよ」フキフキ

潮「んっ…あ、ありがとうございます」

提督「気にすんな」

潮「あ、じゃあお返しに提督のもとつてあげます」

提督「勘弁してくれ」

潮「はむっ…んん…」

提督「……」

潮「んん…あっけチャップが…」

潮「…？提督、どうしたんですか？」

提督「いや、何でもない。」

潮「そうですか…？」

提督（わざとなのか…果たして…）

潮「はあ…もうおなかないっばいです」

提督「花火の時間までまだあるけど、どうする？」

潮「あ、じゃあ屋台見て回りましょうよ！」

提督「OK。んじゃ行くか」

潮「ああ…またポイが…」

提督「俺も一匹で破れちまった」

潮「こんな時夕立ちちゃんがいればなあ」

提督「あいつ上手いの？」

潮「それはもう。『ポイポイポイポイ！』って言いながら取りまくり  
ますよ」

提督「そりやすげえな」

潮「なんでも、これを言いたいがために練習しまくったらしいです  
よ」

提督「だっちゃん…」

潮「できれば、離脱してください！」パンツ　　ビシッ

提督「さすがに射的はお手の物か」

潮「毎日やってますからね」パンツ　　ビシッ

提督「うっしなら俺も」

提督「第二次攻撃隊、全機発艦！」パンツ　ビシッ  
潮「砲撃じゃない…」

提督「そろそろ時間だし、移動しようぜ」

潮「本当ですね。行きましょつか！」

提督「お、やっぱり誰もいねーな」

潮「こんなところあつたんですね」

提督「穴場なんだよここ。誰にも言うなよ？」

潮「もちろんです！」

提督「ありがとな。そう言えば今年はなんか面白い花火も打ち上がるらしいぞ」

潮「面白い花火？」

提督「キャラクターの顔とかメッセージつきのやつとかだよ」

潮「へー…」

提督「おっ！始まったぞ」

ヒューーーーー…ドオン!!

提督「おおー…」

潮「ふわああ綺麗…」

提督（お前の方が綺麗だよ、なんてな）

潮「花火ってなんであんなに色鮮やかなんでしょうね…」ドオン!!

提督「あれは火薬だかなんだかの炎色反応で色変えてるらしいぞ」

潮「へー…」

提督「あと関係ないけど花火って直径300メートルぐらいの爆発らしいぞ」ドオン!!

潮「へー…提督物知りですね」

提督「そんなことねえよ。今ググったからな」

潮「それは言わないで欲しかったです」

提督「あはは。おっ！そろそろ面白花火が打ち上がるぞ」

ヒューーーーー…ドオン!!

提督「ドラえもんにミッキーにピカチュウ…定番だな」

潮「本当ですね…あつ！メツセージつきのもあります！」

提督「本当だな。『ありがとう』か…」

潮「誰に向けてのものなんでしょうね」フフ

提督「さあな。お、まだくるか…ジバニヤンにマリオに瑞雲…瑞雲!？」

潮「まだ来ましたよ…瑞雲12型、試製晴嵐、瑞雲六三二空…」

提督「…帰ったら質問攻めだな」

潮「ええ」

ヒュー…

ド まあ、そうなるな ン!!

提督「やかましいわ！」

提督「なんか最後にどっと疲れたな…」

潮「そうですね…」

提督「今日はさっさと帰って明日に備えようぜ…」

潮「賛成です…」

提督「あ、そうだ」

潮「まだ何かありました？」

提督「浴衣、すげー似合ってる。可愛いよ」

潮「今更なんです…でも、ありがとうございます！」

提督「最初に言おうと思ったんだけど言いそびれちゃってな」アハ

ハ

潮「もう…まあ気づいたのでよしとします！」

提督「そりゃありがたい。さーて、明日からまた仕事だ！」

潮「頑張りましょう！」

【10月】

提督「今年は何の仮装にしようかな♪」ウキウキ

潮「ハロウィンもいいですけどちゃんと仕事してくださいよ？」

提督「もう終わらせたよ」

潮「もう…こういう時は早いんだから…」

提督「祭りごとはやる前に面倒を片付けとかないとな」

潮「毎日それだと助かるんですけど」

提督「それは無理な相談だ…おつ、これとかいいな」

潮「な、なんですかそれ？」

提督「サイレントヒルに出てくる『レッドピラミッドシング』っていうボスだな」

潮「もうちよつとソフトなものにしてくださいよ」

提督「うーん…あつ、じゃあこれは？」

潮「ミイラ男ですか…まあ妥協点ですね」

提督「え？ミイラ男じゃないよ」

潮「え？」

提督「これ、BIOHAZARDに出てくるノスフェラトゥだよ」

潮「ホントだ！よく見ると包帯じゃない…って、いい加減ホラーゲームのキャラから離れてください！」

提督「えー何でー」

潮「怖すぎるからですよ！もつとドラキュラとかフランケンシュタインとかにしてください！」

提督「それじゃ捻りがないじゃん…」

潮「なくていいんです！」

提督「でも王道の仮装は作ってないぞ？」

提督「イビー、ラウラ、青鬼、ツインヘッド、リヘナラドル、ヴェエ  
ルデューゴ…」

潮「全部却下です」

提督「えーじゃあもう着るものないんだけど」

潮「もう血糊垂らすだけでいいんじゃないんですか？提督元々ゾン  
ビミたいな顔ですし」ハア

提督「あ？てめえ今なんつった？」ピキ

潮「顔面腐ってるって言ったんですよ」ピキ

提督「ちよつと表出るクソガキ。久々の夫婦喧嘩だ」スタスタ

潮「上等ですよ」スタスタ



ウラー！ …… シズメ！

提督「……そうだな、文月とか怖がるし執事のコスプレにしようかな」ボロツ

潮「そうしてください」

提督「ところで潮さん？」

潮「なんですか？」

提督「お菓子を経費で落とすことって……」

潮「無理です。例年通り自費で払ってください」

提督「わかりました……」

潮「……まあ、潮の手作りクッキーもあるので、そんなに多く買わなくていいと思います」

提督「えっ……!? そ、それはつまり……」

潮「か、勘違いしないでください！ 潮はみんなに食べてほしいから作っただけです！」

提督「それでもありがたいよ……」

潮「そ、そんなことよりもうパーティーまで時間がありませんよ！」

提督「ん……？ マジだ！ 着替えねえと！」アセアセ

潮「潮も仮装してきますからまた後で！」ダッ

提督「おう！ またな！」

—1時間後—

提督「久々に着たら腹が少しきついな……」

提督「やっぱり夜中にポテチはまずかったか……」

「提督、潮です」コンコン

提督「おう、入ってくれ」

潮「失礼しますね」ガチャ

提督「おお：CLANNADか」

潮「はい。汐ちゃんにしました」

提督「意外だな、お前がアニメキャラのコスプレするなんて」

潮「漣ちゃんにオススメされて見たんですよ」

提督「なるほどね。いいアニメだったろ？」

潮「はい！特に汐ちゃんは名前も同じなので親近感があって、感情移入しちゃいました」

提督「よきかなよきかな。他には見てないの？」

潮「まだCLANNADだけです」

提督「そか。んじゃまあ後でおすすめのDVD貸すよ」

潮「ありがとうございます！」

提督「おう。……さて、準備はもう出来てるぞ」

潮「あ、はい。じゃあ…」

潮「提督、Trick or Treat？」

提督「Trickで」キリッ

潮「提督？」ジト

提督「冗談だ。ほらお菓子」

潮「わー♪ありがとうございます！」

提督「まったく：じゃあ次俺のターンな！」

提督「潮、Trick or Trick!？」

潮「大概にしてくださいよ？」

提督「……Trick or Treat…」

潮「はいどうぞ」

提督「手厳しいなあ…」

潮「提督がふざけたからです」

提督「いや冗談……」

コンコン「提督？いますか？」

提督「つと、とりあえずこの話はまた後にすつか」

潮「そうですね」

コンコン「提督ー？」

提督「はいはい！開いてるから入ってきて平気だぞー！」

【11月】

提督「あくさつぶ…」ザツザツ

潮「提督、落ち葉集まりましたか？」

提督「おう、まあそこそこな」

提督「しつかしお前もこんなクソ寒い中よく大掃除なんてやろうと思っただな」

潮「寒いから、ですよ。そっちの方が焼き芋が美味しく感じます」

提督「まあ一理あるが…こういうのって大抵大晦日じゃない？」

潮「大晦日も掃除やりますよ？」

提督「は？」

潮「は？じゃないですよ。当たり前じゃないですか」

提督「いやいやいや…じゃあなんで今掃除してんの？」

潮「いや、朝起きてふと庭を見たら落ち葉が溜まっていたものですか」

潮「これ大晦日にやるのはきついな、と思ひまして」

提督「で今に至る、と」

潮「はい」

潮（本当は焼き芋食べたかっただけなんだけど）

提督「…ま、確かにそうか」

潮「あれ？怒らないんですか？」

提督「怒って欲しかった？」

潮「いえ全く。でもあの流れなら普通怒るじゃないですか」

提督「まあそうかもな。でもよくよく考えたら確かに大晦日にこの量は終わらねえよ」

提督「多分俺途中で遊び始めてたと思うよ」

潮「…まあ」

提督「それに、みんなが手伝ってくれたから実際の量はそうでもないしな」

潮「皆さん快く手伝ってくれましたもんね」

提督「ああ。特に一航戦の二人が」

提督「……とまあそういうわけで、別に怒る気にはならなかったわけよ」

潮「なるほど」

提督「まあさすがに1人でこれ全部だったら怒ってたけどな」

潮「潮そこまでひどいこと言いませんよ」

提督「知ってるよ。…つと、もうこんな時間か。そろそろ残り集めちゃおうぜ」

潮「了解です」

提督「ふいゝやつと終わった。みんなありがとなー!!」

イエイエ      ハヤクヤキイモタバタイ      サスガニキブンガコウ

ヨウシマス

潮「じゃあまあ早速焼き芋作りますか」

提督「そうだな。えーとサツマイモを…」

サツマイモ(2t)ドン☆

提督「……」

潮「どうしたんですか提督?」

提督「ん……いや多くね?」

潮「そりゃあ艦隊全員ですから」

提督「まあそうなんだけど…落ち葉足りるかなあ」

潮「最悪、高速建造材でやっちゃいましょうよ」

提督「黒焦げになるわ」

潮「冗談はさておき…まあ大丈夫だと思いますよ」

提督「確かに落ち葉も結構量あるしな…よし、みんなー!!最後の仕事だぞー!!」

オーー!!

くアルミホイールマキマキ&ファイアータイムく

提督「あつふ…」モグモグ

潮「意外と足りましたね」モグモグ

提督「ちよつと危なかったけどな」

提督「ていうか一航戦の二人アルミホイル巻くの早すぎじゃね？」

潮「なんかもうそういう工場みたいでしたもんね」

提督「ちよつと残像見えてたしな」

潮「あの二人は食べ物絡むと本当にすごいですね」

提督「な。あんだけあったのに10分ぐらいでなくなったもん」

提督「まあおかげでみんな一緒に食えてるわけなんだけど」

潮「ふふ。……あ、提督」

提督「ん？」クルツ

チユツ

潮「お芋、付いてましたよ♪」ニコツ

提督「おまつ……」

潮「うふふ。1度やってみたかったんです」

提督「つたく、じゃあ今度はこつちから……」

テイトク？ シレイカン？ テイトクサン？

提督「ぐっ……」

潮「こつちから……何ですか？」フフ

提督「……何でもねえよ。一段落したら帰って執務な」

潮「ふふ。はい」

提督「ところで潮」

潮「何ですか？」

提督「お前最近太ったゴオオオン!!」

潮「よく聞こえなかったのでもう一度言ってもらえますか？」ニコ

ニコ

提督「あ、いや何でもねえっす……」

潮「そうですか。それじゃあ早く執務に取り掛かりましょうか」

提督「そうだな……」

【12月】

提督「じんぐつべーじんぐつべー鈴がなるー」

提督「今日はーたのっしーいークリスマスー」

潮「ヘツタクソですね」

提督「うっせ。わざとだよ」

提督「てかなんで俺クリスマスなの仕事してんの？」

潮「サボったのがいけないんでしよう」カキカキ

提督「だつてさー…」

潮「だつてじゃないです。ほら、またサボると今度は大晦日まで仕事ですよ？」

提督「…しよーがねー、やるか」

↳数時間後↳

提督「……」カキカキ

潮「ふう…提督、お茶でも淹れましょうか？」

提督「……」カキカキ

潮「提督？」

提督「ん？呼んだか？」

潮「あ、いえ、お茶にしようかと思っただんですが」

提督「おおそうか。んじや休憩すつか」

潮「はい。今淹れますね」

提督「サンキュ」

潮「…提督ってアレですよね。」コポコポ

提督「あん？」

潮「要領悪いですけど、集中したらとことんやりますよね」ドウゾ

提督「要領悪いは余計だ。でもまあ、確かにな」アリガト

提督「昔から何かに熱中すると抜け出せなくてな。時間を忘れることがよくあるんだ」

提督「おかげで万年寝不足だよ」アハハ

潮「まあ、何かに熱中することはいい事だと思いますよ。趣味にしろ、勉強にしろ」

提督「そりやどーも。…あちっ」

潮「あ、氷まだでしたね。持ってきますよ」

提督「ん、悪いな」

潮「もう慣れましたよ」フフ

くさらに数時間後く

提督「んー……終わったく……」ノビー

潮「なんとかフタマルマルマルまでに終わらせられましたね。お疲れ様でした」

提督「お前もな。…そーいやパーティーって何時からだっけ」

潮「フタマルサンマルだったはずですよ」

提督「そか。んじやとつとと準備して向かうか」

潮「あ、じゃあ潮は一旦部屋に戻りますね」

提督「……?一緒に行かないのか?」

潮「すみません。ちよつと準備があるので」

提督「ふーん?了解。んじやまあ後でな」

潮「はい」

ガヤガヤ ガヤガヤ

提督「やっぱりみんなクリスマス衣装に着替えてくるか」

提督「おっ利根に筑摩! 2人は今年もそれか。相変わらず良く似合うなあ」

提督「よー龍驤。相変わらずでっけー袋だなあ。死体でも入ってんのか?痛って!冗談だっけ!」

提督「お?はつつんに谷風に江風じゃんか。うんうん、3人とも可愛いぞ」

潮「提督!」

提督「ん、おお。潮来た…か……」

潮?サンタコスチューム

提督「……」アゼン

潮「て、提督?どうしたんですか?」

提督「可愛い……」ボソツ

潮「え？」

提督「最高に可愛いぞ潮オ！なんだこの可愛さ!？」

潮「ちよ、提督!？」

提督「今までいろんな姿見てきたけど可愛すぎだろ！もう表現力なさすぎて可愛いとしか言えねえよ！」

潮「や、やめてくださいよ／＼／＼」

提督「なんなんだよこれ!？天使か！天使なのか！」

潮「／＼／＼」プシュー

提督「やはり俺の嫁は世界一イイイイ!!」

提督「はあ……はあ……」

提督「ふう……スッキリした」

潮「て、提督……」

提督「うん？」

潮「う、潮の衣装、そんなに可愛かったんですか……？」

提督「当たり前だろ？なんならもう一度……」

潮「わーっ！わーっ！もう大丈夫ですから！」ワタワタ

提督「そうか？ならいいんだが」

潮「……その、ありがとうございます／＼／＼」

提督「おうよ。しっかしまあ似合ってるには似合ってるんだが……」

潮「？」

提督「生地少なくねえか？肩とか丸出しだし。寒くないか？」

潮「え？いえ……そんなことは……クチッ」

提督「言わんこつちやない。俺の上着羽織つとけ」フアサツ

潮「あ、ありがとうございます」

提督「潮……俺のために気合入れてくれんのはありがたいんだけどさ。お前が病気になったら意味ないよ」

潮「提督……」

提督「……よし、んじやパーティに繰り出すとしようぜ！」

潮「はい！」



潮「もうおなかいっぱいです…」

提督「俺もだ……」

潮「後片付けは皆がやってくれるそうなので私たちは戻りましょうか」

提督「だな。……お。潮、外見てみる」

潮「あ…雪……ですね……」

提督「まさかのホワイトクリスマスかー」

潮「なんですか『まさかの』って」クスクス

提督「うっせ。別に意味はねーよ」

潮「ふふ。……あ、そうだ提督、大事なことを言い忘れてました」

提督「何が………ああね」

提督&潮「潮（提督）、メリークリスマス！」

【大鷹編】

【1月】

提督「あけましておめでとう」ペコリ

大鷹「おめでとうございます」ペコリ

提督「今年もよろしく」

大鷹「こちらこそ」

提督「……うし、初詣行くか」

大鷹「ええ。潮さんは？」

提督「七駆のみんなと行ったよ」

大鷹「そうですか」

― 神社 ―

ザワザワ      ガヤガヤ

提督「……………」ペコリ

大鷹「……………」ペコリ

提督「……………」ポイツ

大鷹「……………」ポイツ

提督「……………」ガランガラン

大鷹「……………」ガランガラン

提督「……………」パン      パン

大鷹「……………」パン      パン

提督「……………」ふう

大鷹「……………」

提督「……………」チラツ

大鷹「……………」ふう

提督「行くか」

大鷹「はい」

カラシ      コロコロ…  
カラシ      コロコロ…

提督 「いただきます」パシッ

大鷹 「いただきます」パシッ

提督 「……………」パクパク

大鷹 「……………」モクモク

提督 「……………」モグモグ  
チラッ

大鷹 「……………」カチャ

大鷹 「どうぞ」コトツ

提督 「さんきゅ」

提督 「……………」タラー

大鷹 「……………」パクパク

提督 「……………」美味い」モグモグ

大鷹 「よかったです」ニコ

提督 「……………」パクパク

大鷹 「……………」モクモク

提督 「……………」なあ」

大鷹 「はい？」

提督 「なんて願った？」

大鷹 「……………」教えません」

提督 「なして？」

大鷹 「……………」願い事は口に出すと叶わないんですよ」

提督 「……………」そ」

大鷹 「……………」コポコポ

提督 「……………」ポー…

大鷹 「どうぞ」コトツ

提督 「……………」さんきゅ」

大鷹「……………」ズズー…  
提督「……………」ボー…  
大鷹「ふう……………」コトツ  
提督「……………」ボー…  
大鷹「……………」クシュツ」  
提督「ん……………」  
大鷹「……………」ブルツ  
提督「……………」ゴクゴク  
提督「……………」コトツ  
提督「……………」ガタツ  
提督「……………」スタスタ     ストン  
提督「……………」ギュー  
大鷹「……………」／／「ポツ  
提督「……………」チラツ  
提督「雪だ……………」  
大鷹「あら……………」  
提督「……………」パタン  
大鷹「んっ……………」モソモソ  
大鷹「……………」ゴソゴソ  
大鷹「……………」ギュー  
提督「……………」ギュー  
大鷹「…炬燵で寝ると風邪引きますよ」ギュー  
提督「お前もだろ……………」ナデナデ  
大鷹「……………」フフツ」  
提督「……………」フツ」

【2月】

提督「……………」ボロツ  
大鷹「……………」結構派手にやられましたね」  
提督「戦艦は何でもそうだが全力で物を投げるのはやめて欲しい

な

大鷹「今日は大目に見ましよう」

提督「そのつもりだけどさ」

朝霜「司令 覚悟ー！」バアン

駆逐艦達「ニかくごー!!!」

提督「次はてめえらかよ…」

大鷹「……………」ポリポリ

提督「……………」ポリポリ

大鷹「……………」ポリポリ

提督「……………あと何個？」ポリポリ

大鷹「68個です……………」ポリポリ

提督「……………ガンバ」ポリポリ

大鷹「はい……………」ポリポリ

大鷹「うー……………」グデー…

提督「お疲れさん」ナデナデ

大鷹「はい……………」

提督「……………」ナデナデ

大鷹「……………」ボー…

提督「……………」ナデナデ

提督「……………」

提督「……………」ポコツ

大鷹「うっ……………」

提督「……………悪い」ナデナデ

大鷹「……………」ムスツ

提督「……………」ナデナデ

大鷹「……………」ムスー  
提督「……………」ハア  
提督「……………」スツ  
大鷹「……………」？

チユツ

大鷹「……………」／／／  
提督「……………」ごめん  
大鷹「いえ……………」／／／

大鷹「そろそろ…」ムクリ  
提督「今日は座ってろ」ポム  
大鷹「でも……………」  
提督「いいから」スクツ  
提督「お粥でいいな？」スタスタ  
大鷹「……………」ありがとうございます  
提督「……………」ん

提督・大鷹「いただきます」  
提督「……………」パクパク  
大鷹「……………」モクモク  
提督「……………」パクパク  
大鷹「……………」モクモク  
提督「あっ……………」  
大鷹「どうされました？」  
提督「恵方巻き……………」

大鷹「あー……」  
提督「……まあいいか」  
大鷹「いいんですね……」  
提督「食うか？」  
大鷹「いえ」  
提督「そ」  
大鷹「……」モクモク  
提督「……」パクパク

ガチャ  
赤城「提督、豆余ってませんか？」  
提督「帰れ」  
大鷹「帰ってください」

【3月】

提督「……」ガタガタ  
大鷹「提督、五人囃子はもう一段上です」  
提督「ん……そか……」ガタガタ  
提督「これでいいか？」  
大鷹「はい。あら……右大臣と左大臣逆ですよ」  
提督「あれ？左に爺さんじゃないのか？」  
大鷹「人形から見て左に、ですよ」  
提督「そか……うし、と」  
提督「これで大丈夫だな」  
大鷹「ですね。あとは……間宮さんのところで雛あられでも貰って  
きましようか」  
提督「大鷹、これ見ても」  
大鷹「？」

提督「お内裏様改二」チャキーン  
大鷹「バチ当たりますよ」

提督「……………♪」ニコニコ　ポリポリ

大鷹「提督は本当に甘いものが好きですね」

提督「まあな。お前も食うか？」ガサ

大鷹「それ、特注のやつですよね？」

提督「うん。間宮に頼んでたやつ」ヒョイ　パク

大鷹「なら遠慮しときます。貴方が注文する物つてすごく甘いじゃないですか」

提督「うーん…そつか。ならこっちの市販のやつ食うか？」スツ

大鷹「それならいただきます」ガサガサ

大鷹「ん…美味しい」ニコ

提督「そりやよかった」ガタツ

大鷹「淹れますよ」ガタツ

提督「ん、さんきゅ」ストン

大鷹「いえいえ。……………コーヒ…いや、お茶ですね？」カチャカチャ

提督「うん。頼む」

大鷹「了解です」

提督「……………」ボー

大鷹「……………」ズズー

提督「……………」ボー

大鷹「……………」フウ

大鷹「……………」ペラツ

提督「……………」ボー

大鷹「……………」ペラツ





大鷹「だから言ったのに……」

【4月】

大鷹「……………」ポケー

大鷹「……………」

提督「…………いしよつと」ドカッ

大鷹「…………どんな塩梅ですか？」

提督「飲み大会が始まった」ゴソゴソ

大鷹「今年はポーラさんもいるから白熱しそうですね」

提督「マジでやめて欲しい」ゴソゴソ

提督「…………飲むか？」ゴトツ

大鷹「いただきます」スツ

提督「ん」キュポン

提督「……………」トク トク トク

大鷹「……………」

提督「んじゃ、乾杯」スツ

大鷹「乾杯」チン

提督「……………」ふう

大鷹「…………ふう」

大鷹「……………飲みやすいですね、これ」

提督「そ…………」

大鷹「またジュースですか」

提督「飲めんからな」

大鷹「…………少しくらいお酒が飲めるようになった方が」

提督「ほざいてろ」ゴクゴク

大鷹「…………まあいいですけど」コクコク

提督「…………ふう」

大鷹「…………ふう」

ゴウツ!!

提督「んおっ……」

大鷹「あら……」

提督「……」

大鷹「……」

提督「……風流だな」

大鷹「……ですね」

提督「……」

大鷹「……」

提督「……」

大鷹「……」ウト

提督「……」

大鷹「……」ウト

提督「……」

大鷹「……」コテン

提督「ん……」

大鷹「スー……スー……」

提督「……」ナデナデ

大鷹「んっ……フフツ」ニコ

提督「……」ナデナデ

大鷹「スー……スー……」

【5月】

大鷹「……」カリカリ

大鷹「……」カリカリ

大鷹「……」チラツ

提督「……」ポー……

大鷹「……提督」

提督「んあ……?」ポー……

大鷹「手を動かしてください」

提督「……うん」

提督「……………」カリ

カリ

大鷹「……………」カリカリ

提督「……………」カリ

カリ

大鷹「……………」カリカリ

チラツ

提督「……………」コトツ

提督「……………」ポー…

大鷹「……………」ハア

大鷹「五月病なのは分かりますけど、ちゃんとやらないと今日中に  
終わりませんか？」

提督「分かってんだけどさ…どうにもやる気が出なくて」

大鷹「…まあそれが五月病ですから」

提督「うーん……」

提督「ごめん、ちよつと気分転換してくるわ」ガタツ

大鷹「…分かりました。早めに戻ってきてくださいね？」

提督「分かってる」ガチャ

バタン

「イエッヘエエエエイ……」

大鷹「……………」ハア

大鷹「……お茶でも淹れようかしら」

—1時間後—

大鷹「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

大鷹「……………」フウ」コトツ

大鷹「……………」チラツ

大鷹「……遅い」

ガチャ

大鷹「遅すぎますよ……あら、潮さん」

潮「お疲れ様です大鷹さん」

大鷹「何かありました?」

潮「いえ特には。進捗の確認ですかね」

大鷹「そうだったんですね」

潮「ええ。あ、それとこれお土産です」ドサツ

提督「」ピクピク

大鷹「あら：わざわざありがとうございます」ペコリ

潮「いえいえ。当然のことをしたまでです」

大鷹「それじゃお礼に、お茶でもいかがですか?」

潮「ありがとうございます」ニコ

潮「……ふう」

潮「美味しい……またお茶淹れの腕上げましたね」

大鷹「ふふ。ありがとうございます」

潮「執務の方は?」

大鷹「私の分は全て終わりましたよ」

潮「さすが。誰かさんに見習って欲しいですね」

大鷹「ふふっ」

潮「そうだ大鷹さん、武蔵さんから伝言預かってますよ」

大鷹「あら：なんの用かしら?」

潮「えーと：『今夜のディナー、一緒にどうだ?』だそうです」

大鷹「それはいいですね。是非!」

潮「分かりました。伝えておきますね」

潮「集合は20時に武蔵さんの部屋だそうです」

大鷹「分かりました。ありがとうございます」

潮「いえ。…よくご一緒するんですか？」

大鷹「ええ。たまに清霜さんや大和さん、最近では神鷹さんも一緒に」

潮「へえ……」

大鷹「今夜一緒に行きますか？」

潮「いいんですか？」

大鷹「もちろん。武蔵さんも私も、お客さんは大歓迎ですから」

潮「それじゃあ、お言葉に甘えてご一緒します！」

提督「それ俺も行きたい！」 ↑ 簀巻き状態

大鷹・潮「貴方は仕事をしてください」

## 【6月】

ザアー

提督「……………」 カリカリ

大鷹「……………」 カリカリ

提督「……………」 カリカリ

大鷹「……………」 カリカリ

提督「……………」 ガタツ

大鷹「……………」 カリカリ

提督「……………」 ガラガラガラ

ザアー

大鷹「……………」 カリカリ

提督「……………」

大鷹「……………」 コトツ

大鷹「…何してるんですか」

提督「いや…別に…」

大鷹「そうですか…」ノビー

大鷹「つふう…」

提督「雨の日ってなんかいいよな」

大鷹「分かります」ガタツ

提督「だよな。やっぱりお前もこっち派だったか」

大鷹「なんですかこっち派って…」スタスタ

提督「別に…あ、また時雨がいい雨だねしてる…」

大鷹「傘もささずに…風邪引きますよ…」

提督「平気だよ。あいつ雨降った時毎回やってるけど風邪ひいたと

こ見たことないもん」

提督「それにほら…」

大鷹「あ…山城さん」

提督「な？」

大鷹「ええ…」

提督「…さ、執務再開するか」

大鷹「そうですね」

提督「…げ」

大鷹「どうされました？」

提督「消耗品のチェック忘れてた…補充申請来て…」

大鷹「…まあ、少しくらいなら平気でしょう」

提督「いや、これ全部」ビッシリ

大鷹「…」

提督「あの…明日買いに行くんで…勘弁してください…」ビクビク

大鷹「…」

提督「た、大鷹さん…？」ビクビク

大鷹「明日、必ず全部買ってくださいね」ゴゴゴゴゴ  
提督「は、はひ……」ビクビク

—翌日—

提督「んじや行くか」

大鷹「ええ。メモは持ちましたか？」

提督「ガキじゃねーんだから大丈夫だって」

大鷹「いつも仕事や任務を忘れるのは誰ですか？」ニツコリ

提督「も、持ってきてます……」ダツ

大鷹「まったく……」

アリアアトシター

提督「おつも……」ズツシリ

大鷹「結構買いましたね」

提督「これ鎮守府までか……ダルっ」ウイーン

大鷹「文句言わない。自業自得ですよ」ウイーン

提督「ちっ……まあでもいい感じに晴れてよかつて」

ザー　　ザー

提督「……」

大鷹「あら……傘もってきてよかつた」バサツ

提督「……マジで言ってるのかよー!!」

大鷹「どうされました？」

提督「傘もってきてない……」

大鷹「貴方って人は本当に……」ハア

提督「いやだって晴れてたし……」

大鷹「梅雨なんですから折り畳みぐらい持ってきてくださいよ……」



提督「うう……ていうかお前、軍人は傘さしちやいけねーんだぞ！」

大鷹「カツパを着てきてから言うんですね」

提督「うぐう！」グサツ

大鷹「ハア………ほら」グツ

提督「あ……？」

大鷹「私の傘に入ってください。これなら平気でしよう？」

提督「………いいのか？」

大鷹「……まあ風邪ひかれても困りますし」

提督「………ありがとう」

大鷹「どういたしまして」

---

ザーザー

提督「………」スタスタ

大鷹「………」スタスタ

提督「………ん、大鷹」スタスタ

大鷹「はい？」スタスタ

提督「もつとこつち寄れ。肩濡れてんぞ」ダキヨセ

大鷹「あ、ありがとうございます」

提督「うん………にしてもちよつと雨強くなってきたか？」

大鷹「そうですね………これはどこかで雨宿りした方がいいかもしれ  
ませんね」

提督「賛成」

---

ザーザー

大鷹「……ふう」カチヤ

提督「運良くカフェがあつてよかった」

大鷹「ですね」

提督「ズズー……………ふう」カチャ

大鷹「あら……………提督？」

提督「んあ？」

大鷹「あれ、花嫁さんでしょうか？」ユビサシ

提督「んー……………そうみたいだな」

大鷹「綺麗ですね……………」ウツトリ

提督「そうだな。……………そつかジューンブライドか」

大鷹「なんですかそれ？」

提督「んー……………俺もよく知らないんだけどな。6月に挙式すると幸せになれるっていう言い伝えがあるらしい」

大鷹「へえ……………」

提督「欧米発祥らしいが……………日本でやったら梅雨にクリーンヒットだわな」

大鷹「ですね……………。でも、一生忘れられないでしょうね」

提督「いい意味でも、悪い意味でもな」フフツ

提督「さて、と……………雨も弱まってきたし、そろそろ行くか」

大鷹「了解です」

## 〔7月〕

提督「準備できたか？」

大鷹「ええ。行きましょう」

ザワザワ　　ザワザワ

提督「……………人が多い！」

大鷹「祭りですからね」

大鷹「それよりも提督」ツンツン

提督「んあ？」

大鷹「私に対して何か言うことは？」

提督「え？んー……」ジツ

提督「……髪留め変えた？」

大鷹「え……あ、まあそれもそうなんですけど……」

大鷹「もつと他に何かありません？」

提督「うーん……あつ、グロス変えた？」

大鷹「まあ、変えましたけど……ていうかそこまで分かると気持ち悪いです」

提督「オイ」

大鷹「すみません。つい本音が」

提督「つたく……浴衣、似合ってるよ」

大鷹「……ありがとうございます」

提督「ん……」

提督「とりあえず花火まで時間あるから出店でも回ろうぜ」

大鷹「そうですね。腹ごしらえも兼ねて行きましょうか……つと」

大鷹「提督」パツ

提督「ん……ああ」

ギョツ

提督「……離すなよ」

大鷹「……ええ」

提督「金魚すくいねえ……」

大鷹「私得意ですよ」

提督「捕っても飼えねえぞ？」

大鷹「やるのが楽しいんじゃないですか」グイッ

提督「……まあいいけど」

大鷹 「ま、こんなところですね」 ビチビチ  
提督 「屋台荒らしじゃねえか」

提督 「祭り飯は焼きそばこそ至高」 モグモグ  
大鷹 「青海苔がちよつと嫌ですけどね」 モグモグ  
提督 「屋台のやつってなんでこんな美味いんだろうな」  
大鷹 「本当ですよ。雰囲気のおかげもあるんですけど」

提督 「ケバブが美味い」 モグモグ  
大鷹 「フランクフルトも美味しいですよ」 モグモグ  
提督 「ひと口くれ」  
大鷹 「ケバブと交換です」  
提督 「おk。ほらよ」 スツ  
大鷹 「はむっ」  
大鷹 「ん……美味しい」 ニコ  
提督 「おま……食いすぎ……半分……」  
大鷹 「フライドポテトもつけますから」  
提督 「許す」

大鷹 「ご一緒にポテトもいかがですk」  
提督 「うるせえ」 モグモグ

提督 「射的やろうぜ」

大鷹 「いいですけど……射的は苦手なんですよね……」

提督 「空母なのにな？」

大鷹 「私は射ちませんから……」

提督 「そーいやそーうか」

提督 「んじややめるか？」

大鷹 「いえ。苦手ですが、嫌いなわけではないですよ」

提督 「ん、ならやるか」

大鷹 「ええ」

大鷹 「提督、上手いですね」

提督 「菓子しかとってねえけどな」ドツサリ

提督 「甘い」モキュモキュ

大鷹 「ベビーカーステラって初めて食べました」モキュモキュ

提督 「美味いだろ？」

大鷹 「ええ。お茶が欲しくなりますけど」

提督 「持ってきてるぞ」チャプ

大鷹 「ありがとうございます。お礼にかき氷をどうぞ」スツ

提督 「ありがとう」シヤクシヤク

提督 「ヴェエアアアア!!!」キーン

大鷹 「大丈夫ですか？」ナデナデ

提督 「広島焼き…って言うのと怒られるかな」

大鷹 「浦風さん達ですか」

提督 「ああ。お好み焼きの日にはよく喧嘩してるよな」

提督 （一応浦風って大阪出身のはずなんだがなあ…）

大鷹 「ちなみに提督的にはどっちですか？」

提督 「どっちでもいい」

大鷹 「…：それ、大丈夫なんですか」

提督 「…：正直ヤバイ」

大鷹 「…：」

提督 「ちなみに大鷹的には？」

大鷹 「私は大阪焼き、お好み焼きですかね」

提督 「…：そろそろ時間か」

大鷹 「行きましょう」ギユッ

提督 「ああ」ギユッ

—土手—

提督 「よっこいせ…」ドサッ

大鷹 「よいしょ…」トスッ

提督 「…：あと何分？」

大鷹 「5分ぐらいですね」

提督 「…：寝るか」ゴロリ

大鷹 「なんでですか」

提督 「冗談だよ。星でも見てようぜ」

大鷹 「詳しいんですか？」

提督 「全く」

大鷹「なんなんですか…」  
提督「いいだろ別に…」

ヒュー…………ドオン！

提督「ん」

大鷹「わぁ…………」

ヒュー…………ドオン！

提督「ほお…………」

大鷹「綺麗…………」

提督「お前の方g」

大鷹「そういうのいいんで」

ヒュー…………ドオン！

大鷹「…………提督」トスツ

提督「ん…………」

大鷹「……………」ヨリカカリ

提督「……………」ヨリカカラレ

ヒュー…………ドオン！

提督「…………なあ大鷹」

大鷹「なんですか…？」

提督「…………なんでもない」

大鷹「…………そうですか」

ヒュー…………ドオン！

大鷹「提督……」

提督「うん……?」

大鷹「呼んでみただけです……」

提督「ん……」

---

---

提督「……終わったか」

大鷹「そうみたいです」

提督「いやー良かった。また来年も来るか」

大鷹「そうですね。ところで提督」

提督「ん?」

大鷹「終わりみたいな雰囲気出してますけど、皆さんへのお土産まだ買ってませんよね?」

提督「……そうでした」

黒潮「広島焼きや!」

浦風「お好み焼きじゃ!」

大鷹「なんでアレ渡したんですか……」コソコソ

提督「とつきーに強奪されたんだよ……」コソコソ

黒潮・浦風「司令はん(提督)はどっちや(じゃ)!?」

提督「勘弁してくれ……」

【8月】

提督「うおーい大鷹ー」コンコン



シーン…

提督「いねーのかー？ 入るぞー？」 ガチャ

提督「あれ……………ん、」

大鷹「スー……………スー……………」

提督「なんだ……………スタスタ  
ストン

提督「……………」 ナデナデ

大鷹「んっ……………」

提督「……………」 ナデナデ

大鷹「スー……………スー……………」

提督「……………」 チラツ

8月8日

提督「……………」 ナデナデ

「魚雷!? どこから!?!」

「潜水艦……………!? きゃあっ!!」

「ああ……………もう……………」

ああ……………また……………か……………

また私は……………沈むのか……………

……………暗い……………何も…見えない……………

「てい……………とく……………」

ガシッ

ここにいるぞ

大鷹「ん……………あれ……………?」パチ

提督「起きたか」

大鷹「提督……………?」

提督「よう」

大鷹「……………」ギユッ

提督「ん……………」

大鷹「提督……………」

提督「……………」

ナデ ナデ

大鷹「ん……………す、みません……………」グスッ

提督「……………うん」ナデ ナデ

提督「……ほれ」コトツ

大鷹「ありがとうございます……」

提督「……」ズズー

大鷹「……」

提督「……」ホウ

大鷹「……」

提督「……飲めよ」

大鷹「……」

大鷹「……」カチャ

大鷹「……」コク

大鷹「……」フウ

大鷹「……甘すぎます」

提督「ふん……」

大鷹「……」ズズー

大鷹「……」フウ

大鷹「……提督」

提督「あ……？」ズズー

大鷹「もし私が沈みそうになったら……どうしますか？」

提督「どうするって……そりゃ助けるだろ」フウ

大鷹「提督1人でもですか？」

提督「行くだろうな」

大鷹「……上層部から圧力があっても？」

提督「ああ」

大鷹「……提督という立場が邪魔しても？」

提督「……？どゆ意味？」

大鷹「……提督という立場上、果たさなければならぬ仕事があり

ますよね。例えば艦隊の指揮とか」

大鷹「そういうものが邪魔をした場合は？という意味です」

提督「ふーん……」

提督「じゃあ、こんな立場（もの）いらなかな」

大鷹「え……」

提督「多分淀ちゃんか長門に全部任せて助けに行くとおもうぜ」

大鷹「……それは何故ですか？」

提督「お前が大切だから」

大鷹「っ……」

提督「それに……」

大鷹「？」

提督「好きな女1人守れないなんて、提督である以前に男として失格だ」

大鷹「……」

提督「大鷹……？」

大鷹「……馬鹿ですね……」

提督「ふん。馬鹿で結構」

大鷹「本当に……」グスツ

大鷹（馬鹿で、素敵な人）

## 【9月】

提督「……」カリカリ

大鷹「……」カリカリ

ミーンミンミンミンミンミンミンミーン

提督「……」カリカリ タンタンタンタン

大鷹「……」カリカリ

ミーンミンミンミンミンミンミンミーン

提督「……………」カリカリ タンタンタンタン

大鷹「……………」カリカリ イライラ

ミンミンミンミンミンミンミンミン

提督「」ブチツ

提督「うるせえええええ!!」バアン!!

大鷹「貴方の方がうるさいです!!」バアン!!

提督「ああ!?今セミがうるせーから追い払ったんだろが!!」

大鷹「それ以前に貧乏ゆすりがるさいんですよ!!」

提督「うるせーなあ!!こっちはイラついて仕方ねえんだよ!!」

大鷹「こっちのセリフですよ!!」

提督「やんのかあ!!」

大鷹「ああ!?!」

提督「……………」ハアハア

大鷹「……………」ハアハア

提督「…………やめよう。こんなことしてる場合じゃない」ストーン

大鷹「ですね…………」ストーン

提督「アイツらにもこの地獄を味あわせるべきか…」

大鷹「同意したいところですが…お仕置きで勘弁してあげましょう

……………」

〈2日前〉

ゴオオオオオ

提督「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

提督「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

コンコン

提督「ん…………?」ピタツ

大鷹「……………」チラッ

提督「……………」ガラガラ

提督「窓の外で何やってんだ二人とも」

川内・江風「忍者(ごっ)っ！」

提督「…………ガキか。危ないから中入れよ」

川内「へーきへーき！」

大鷹「お二人共、ここ2階ですよ？」

江風「大丈夫だって大鷹さん！このくらいで怪我するほどヤワじやないって！」

大鷹「それは……………ですが……………」

提督「っーかお前ら何に乗って……………」ノゾキ

エアコンの室外機

提督「ぼっ……………！お前ら今すぐ降りろ！」

川内・江風「へ？」

メキメキメキ      ドオン！

川内「うわっ!？」スタツ

江風「うおっ!？」スタツ

提督「あああああ!!」

大鷹「何の音……………？……………あああああ!!」

---

提督「土台を早めに補強しておくべきだった……………」

大鷹「暑いからって後回しにしなればよかったですね……………」

提督「……………なあ大鷹」

大鷹「はい……?」

提督「とりあえず一旦休憩にして涼みに行かないか……?」

大鷹「賛成です……」

ゴオオオオ

提督「もう廊下で執務しない?」スタスタ

大鷹「ダメです」スタスタ

伊58「あ、てーとく!」

提督「おうゴーヤ。これから飯か?」

伊58「うん!2人とも一緒にどうでち?」

大鷹「すみません……もうお昼はすませてしまったんです」

伊58「そつか……残念でち」

提督「ごめんなゴーヤ」

伊58「ううん!大丈夫でち!」

伊58「それじゃゴーヤは行くね!」

提督「おう。またな」

大鷹「また今度」

伊58「バイバイ!」フリフリ

提督「……」フリフリ

大鷹「……」フリフリ

提督「さて………ん、」

大鷹「どうされました?」

提督「……いいこと考えた」

大鷹「………?」

提督「執務室が暑ければ脱げばいいのだ」

→水着モード

大鷹「何をやり出すかと思えば……」ハア

提督「理にかなってるだろ」

大鷹「まあ……」

提督「あと水を汲んだ桶と扇風機も用意した」ゴトツ

大鷹「それはありがたいですね。じゃあ早速……」

提督「ちよつと待ちな」

大鷹「はい？」

提督「大鷹、お前も水着になるんだ」

大鷹「ええ……」

提督「お前もその服暑いだろ？涼しくなっちまえよ」

提督「それに水使うから濡れても平気な格好の方がいいだろ？」

大鷹「……まあ確かに。でも私水着持ってませんよ」

提督「それなら心配ない」ガラツ

大鷹「これは……？」

提督「お前のために用意した水着だよ。セレクトは神鷹に任せた」

大鷹「私の……ために……」

提督「どうだ？」

大鷹「……とても素敵です。ありがとうございます」

提督「そりゃよかった」

大鷹「じゃあ私、早速着替えてきますね」ガチャ

提督「おう。あ、大鷹」

大鷹「？」

提督「もしよかったらこの紐ビキn」

大鷹「結構です!!」ボタン！



コン　　コン

大鷹「提督、着替え終わりました」

提督「おう」

大鷹「入りますね……」ガチャ

提督「お、おお……」

大鷹「どう……ですか？」モジモジ

提督「控えめに言って最高」

大鷹「あ、ありがとうございます／＼／＼」テレテレ

提督「いやー眼福眼福。……さ、執務再開するか」

大鷹「はい！」

提督「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

提督「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

ブウウウン

提督「……結局あんまり変わらねえな」カリカリ

大鷹「そうですね……」カリカリ

【10月】

ザザーン…　　ザザーン…

提督「大鷹、準備はいいか？」

大鷹「ええ、バツチリです」

提督「うし……」バサツ

提督 「秋刀魚狩りじゃああああ!!」

大鷹 「提督、択捉さん達が帰ってきました」

択捉 「ただいま戻りました！」 ビシッ

松輪 「も、戻りました…」

佐渡 「戻ったぜー！」

対馬 「帰投しました…」

提督 「おかえり4人とも。成果はどうだ？」

択捉 「3匹確保出来ました！」

提督 「そいつはよかった。疲れたろう、間宮に行つてきな」ピラッ

松輪 「い、いいんですか…？」

提督 「おうよ」

佐渡 「司令も来いよー！」

提督 「俺はまだ仕事あるからダメ。おら、行つた行つた」

対馬 「…司令」

提督 「ん？」

対馬 「一緒に…いきませんか？」 ウワメツカイ

提督 「……………u」

大鷹 「ダメですよ」

提督 「俺まだ1文字目も発音しきつてないんだが…」

大鷹 「行く気満々だったでしょう。まったく…」

対馬 「うふふ…」

佐渡 「大鷹さんも来ないのか？」

大鷹 「すみません。私も執務があるので…」

佐渡 「そつかー…んじやひぶ達でも誘うか！」

佐渡 「つーことで司令、追加でくれ！」

択捉 「ちよつと佐渡！」

提督 「いいよとろちゃん。ほいよ」ピラッ

佐渡 「サンキュー！んじやまたなー！」 ダダダ

択捉「あつ、もう…！すみません司令…」ペコリ  
提督「いいよいいよ。ほら、皆も早く行かないと好きなメニュー売り切れちゃうぞ」

択捉「本当にすみません…では、失礼します」ペコリ

松輪「あ、ありがとうございます！」ペコリ

対馬「それじゃ…失礼しますね」ペコリ

提督「おう」

バタン

提督「…微笑ましいな」

大鷹「ですね」

提督「さてさてあと30匹か。頑張りますか」

大鷹「…そういえば提督、ひとつ疑問が」

提督「あん？」

大鷹「秋刀魚を集めるとどうなるんですか？」

提督「40匹集めると銀河になる」

大鷹「秋刀魚もですか!？」

コンコン

提督「うーい」

大鷹「はい」

榛名「失礼します！」ガチャ

提督「おお、おかえり榛名。報告書？」

榛名「はい！こちらです！」スツ

提督「ありがとう。…おお！10匹確保か！」

榛名「はい！大漁でした！」

提督「よくやった！これで銀河が…あれ？」

大鷹「どうしました?」

提督「……なあ榛名、赤城はどこいった?」

榛名「赤城さんですか? 帰投したあと加賀さんと一緒に秋刀魚を備蓄しに……あつ」

提督「大鷹オ!」ガタツ

大鷹「もう飛ばしてます」ブウウウン

大鷹「……あ、いました。備蓄庫裏です」

提督「ああああかあああぎいい!!」ダダダダダ

大鷹「けど……行っちゃった」

榛名「どうしたんですか?」

大鷹「いえ、加賀さんが窘めてたので問題は何もなかったんですよ」

榛名「ああー……」

提督「……めつちや無駄足だったんだけど」ゼエゼエ

大鷹「早とちりするから……」

榛名「あはは……」

コンコン

大鷹「はい」

鳳翔「失礼します。提督、秋刀魚のことで少々……あら?」

大鷹「すみません鳳翔さん。ちょうど今工場に行ってしまいました……」

鳳翔「あらそう……」

大鷹「どうぞおかけになってください。今お茶も用意するので」ガタツ

鳳翔「気を遣わなくても大丈夫よ。大鷹ちゃんこそ、少し休憩したら?」

大鷹「え…わ、私ですか？」

鳳翔「ずっと執務だったんでしよう？疲れが目に見えてわかるわよ」

大鷹「そ、そうですか…？」

鳳翔「そうよ。ほら、かけて」

大鷹「え…でも…」

鳳翔「いいから」

大鷹「…はい」ギシツ

提督「ただいまー」ガチャ

鳳翔「おかえりなさい提督」

提督「ありや鳳翔？大鷹はどした？」

鳳翔「…」ツンツン

提督「んん…？おお…」

大鷹「スー…スー…」

提督「珍しいな。コイツがここで寝てるなんて」

鳳翔「まあ、朝から執務でしたし」

提督「ありやー…そーういやそーうか」

鳳翔「休憩はちゃんとさせてました？」

提督「それもちろん。まあただ…昨日ちよつと夜更かしたからな」

鳳翔「もう…程々にしてください」

提督「善処する。…」んで、鳳翔は何の用なんだ？」

鳳翔「あ、はい実は…」

大鷹「ん……はっ!？」ガバツ

提督「おう、起きたか」

大鷹「て、提督？鳳翔さんは……」

提督「用事が済んだから帰ってもらったよ」

大鷹「そ、そうですか……」

大鷹「ところで、何故膝枕を？」

提督「鳳翔と交代しただけさ。嫌だったか？」ナゲ

大鷹「いえ……」

大鷹「……あの、提督」

提督「うん？」ナゲナゲ

大鷹「……しばらくこのままでもいいですか？」

提督「……わかった」

大鷹「……ありがとうございます」ポスト

提督「……ん」

大鷹「そういえば秋刀魚は？」

提督「そこは問題ない」

提督「予定より多く取れて今夜は秋刀魚パーティーだったさ」ナゲ

ナゲ

大鷹「楽しみですね」

【11月】

提督「……………」ムキムキ

大鷹「……………」コポコポ

提督「……………」モキユモキユ

提督「……………」ゴクン

提督「……………大鷹」

大鷹「はい？」コトツ

提督「膝枕して」

大鷹「寒いから嫌です」

提督「……………」

大鷹「ふー……………」ゴソゴソ

大鷹「……………」ペラッ

提督「……………」ツンツン

大鷹「……………」ペラッ

提督「……………」ツンツン

大鷹「……………足でつつくのやめて貰えますか？」

提督「……………膝枕」

大鷹「しつこい」ペラッ

提督「んだよ……………」ボフッ

大鷹「……………」ムキムキ

提督「……………」ポー…

大鷹「……………」ムキムキ

コンコンコン

提督「どーぞー……………」ポー…

大鷹「どうぞ」

山城「報告書持ってきたわよ」ガチャ

提督「山城か…ありがと。そこ置いといて」

山城「見事にだらけてるわね」パサッ

山城「執務は終わってるの？」

大鷹「一応日勤のものは。炬燵を出したんで午後休にされました」

山城「相変わらず気ままね…」

提督「山城も入ってくか？」

山城「悪いわね。先約があるの」

大鷹「時雨さんですか？」

山城「ええ。最上も連れて買い出しに行くのよ」

提督「そ……じゃあついでにみかん買ってきて」

山城「嫌よ。なんでアンタの為に買ってこなきゃならないのよ」

提督「ストックが切れた」

大鷹「え、もうですか？」

提督「うん。ほら」カラツポ

大鷹「食べ過ぎですよ！」

提督「みかんが美味しいのが悪い」ゴロリ

山城「何訳の分からない事言ってるのよ」

大鷹「もう……山城さん、その買い物ついて行っても大丈夫ですか？」

山城「え？まあ……構わないけど」

大鷹「ありがとうございます。ほら、提督準備してください」

提督「えー……めんどくせー……」

提督「いいじゃんみんなで購入ってきてくれよー」ゴロリ

山城「コイツは……！」

大鷹「提督」

提督「んあ？」

大鷹「さっさとしてください」「ニコ

提督「……………ハイ」

バタバタバタ

山城「……………さすがね」

大鷹「それほどでも」

ブウウウン



提督「んで？お前らは何の買い出し？」

時雨「化粧品かな」

最上「ボクはお菓子！」

山城「私も化粧品ね。あと、姉様に頼まれたシャンプーも」

大鷹「皆さんそれぞれ別の物を買われるんですか？」

山城「最初は1人で行く予定だったんだけどね。この子達もちょうど行かつて聞いたから」ポン

最上「2人は何を買うの？」

提督「……モガミン、それ以上聞かない方がいい。世の中には知らない方<sup>g</sup>」

大鷹「みかんです」

提督「オイ」

最上「そうなんだ！じゃあボクとフロア一緒だね」

提督「え？モガミンも無視？」

最上「すぐに済んじやいそう？」

大鷹「いえ。夕飯の買い物もついでにしていこうと思ってるので、多少時間はかかりますよ」

大鷹「なので、じっくり吟味してもらって大丈夫です」ニコ

最上「そう？ならゆっくり選ばせてもらうよ」

提督「……」

提督「なあ時雨……」クルツ

時雨「扶桑のシャンプーって専門店のだよね？どれか分かるの？」

山城「メモを渡されたから大丈夫よ」

時雨「そつか。……ねえ山城、頼みがあるんだけど」

山城「何？」

時雨「化粧品を少し見繕ってもらってもいいかな？」

山城「アンタが使うの？」

時雨「ううん。もうすぐ海風の誕生日だからさ」

山城「ああ……分かったわ」

時雨「助かるよ」

提督「……」

提督「……なあ大鷹」クルッ

大鷹「私は和菓子ばかりですから、あまり参考にはなりませんよ？」

最上「全然平気だよ！むしろ別の角度からの意見が欲しいんだ」

大鷹「そうですか…？なら、ご一緒しますね」

最上「うん！」

提督「……………」

提督「………新手のイジメだ」ボソッ

大鷹「何か言いましたか？」クルッ

提督「別に」

山城「それじゃあ、一旦お別れね」

提督「終わったやつからここに集合な」

最上「うん！」

時雨「分かったよ」

提督「んじやな」

大鷹「迷子にならないでくださいね」

提督「せめて時雨に言えよ」

時雨「僕もならないよ……」

提督「Mサイズ3箱…いや、5箱だな」

最上「そんなに買うの？」

提督「執務室に置くからな。ある程度ストックしておかないとすぐ弾切れになる」

大鷹「皆さんよく食べますから」

最上「なるほどね」

提督「今日の晩飯は？」スタスタ

大鷹「そうですね…カレイの煮付けとポテトサラダにしましょうか」コロコロ

提督「キュウリはなしにしてくれよ」

大鷹「はいはい」

提督「あとカレイは卵持ちがいい」

大鷹「あればそうしますよ」

最上（夫婦ってよりかは親子みたい）

大鷹「こちらのポテトチップスはどうでしょう？」

最上「そんな味もあったの？面白そうだからそれも買おう！」

大鷹（最上さんって、少し提督に似てるわね）

最上「あとこれと…これも買おう。よし、待たせたね…って、あれ？提督は？」

大鷹「さすがにダンボール5箱は邪魔なんで、先に会計してます」  
最上「そっか」

提督「前が見えねえ」コロコロ

山城「海風は肌が綺麗だから化粧水なんかいいかもしれないわね」  
ジーン

時雨「なるほど…」

山城「予算はいくらくらいあるの？」

時雨「できれば1万円以内で抑えたいけど、良いものがあればそれ以上でも平気だよ」

山城「そ。なら一式揃えてプレゼントしましよ。足りなかつたら私も出すわ」

時雨「……いいのかい？」

山城「ええ。アンタの妹なら私の妹も同然だし」

時雨「ありがとう山城」ニコ

山城「ふん」

---

時雨「お待たせ」

提督「おう。…山城は？」

時雨「最上階に行つてるよ。扶桑のシャンプーはそこしか売ってないからね」

提督「そうか。…にしても随分買ったな」

時雨「提督も人のこと言えないと思うけど…」

提督「ばつかお前これでもすぐなくなるんだぞ？」

時雨「なんで……ってそっか。そうだね」

提督「察したか」

時雨「まあ、結構執務室には行くからね」

提督（赤城……）

時雨（赤城さん……）

赤城「クシユツ」

加賀「風邪ですか？」

赤城「大丈夫よ加賀さん。ちよつと鼻がムズムズしただけだから」

加賀「そうですか……」

---

最上「お待たせ！」

大鷹「遅れました」

提督「おう来たか」

時雨「最上…買いきすぎじゃないかい？」

最上「そんなことないよ！ていうか時雨だって人のこと言えないじゃないか」

時雨「僕のは化粧品一式だから仕方ないんだよ」

大鷹「提督、みかんはどうしたんですか？」

提督「車に置いてきたよ。邪魔だしな」

大鷹「そうでしたか」スツ

提督「前が見えなくて少し危なかったぜ」ガサツ

時雨・最上「……………」「ジー」

提督「…………？何だよ？」

時雨「いや極めて自然だなあ、と」

提督「はあ？」

最上「気にしないでいいよ」

提督「…………？」

提督「…………遅いな」

時雨「ちよつと電話かけてみるよ」プルルルルル

時雨「……………」「プルルルルル」

ガチャ『もしもし？』

時雨「あ、山城？今どこにいるの？」

『その声は時雨？』

時雨「あれ…………もしかして扶桑？」

扶桑『そうよ。山城に何かあったの？』

時雨「いや、待ち合わせ場所に来るのが遅いから心配でかけたんだけど…………」

時雨「その様子だと、携帯を忘れてるみたいだね」

扶桑『そうね。まったく山城だったら…………。多分山城なら迷子セン

ターにいると思うわ』

時雨「どうしてだい？」

扶桑『不幸だから…なんてね。単なる方向音痴よ』

時雨「そ、そっか…。ありがとう扶桑」

扶桑『提督によるしくね』

時雨『うん。それじゃ切るね』

扶桑『ええ。またね』ガチャ

提督「…で、どうだった？」

時雨「携帯忘れてたみたいだけど…居場所は分かったよ」

提督「なんでや。…それでどこ？」

時雨「迷子センターだつてさ」

提督「迷子センター？なんで…つてそうか」

大鷹「そういえば山城さん、方向音痴でしたね…」

時雨「あ、知ってたの？」

提督「秘書艦の時にな。俺初めて見たよ。成人女性が迷子センターにいたところ」

最上「それはともかく、とりあえず行ってみようよ！」

時雨「だね。あ、入れ違いにならないように僕は残るよ」

提督「サンキュ。んじゃ行ってくるわ」

提督「ただいまー」

時雨「あ、おかえり」

山城「遅れて悪かったわね」

時雨「大丈夫だよ」

大鷹「これで全員揃いましたね」

最上「じゃあ早速…」

提督「帰るか」

最上「ええー!?お昼じゃないの?」

提督「実は…正直、このパート長すぎると思うんだ。タイトル詐

欺にも程があるだろ」

最上「め、メタい……」

提督「とうことで撤収ー！」

皆「「ええー!?」「」

提督「正直作者もこのパートこんな長くなるとは思わなかったんだ。許してくれ」モグモグ

大鷹「口の中空にしてから喋ってください」

時雨「あはは……」

最上「話自体は続けられそうだけど、本筋から逸れそうだしね」

山城「アンタもメタくなってるわよ」

## 【12月】

大鷹「……………」パタパタ

提督「……………」キュツキュツ

大鷹「……………」パタパタ

提督「……………」キュツキュツ

大鷹「……………」ガラガラ      パンパン

提督「……………」プシュツ      キュツキュツ

コンコン

提督「うーい」

大鷹「どうぞ」

ガチャ「失礼します」

曙「クソ提督、窓拭きが終わったわよ」

提督「サンキューボノ。次は各班に分けて床、外掃き、入渠施設、物品整理を頼む。終わったやつから自室の掃除。んで解散」

提督「それと料理上手な子は間宮のところに行かせてくれ」

曙「分かったわ。明石さんのところはいいの？」

提督「あそこにはバリつちやんと淀ちやん、妖精さんがフルで活動してるから問題ないよ」

曙「そう…分かったわ。また何かあったら来るわね」ガチャ

大鷹「あ、曙さんちよつと待ってください」

曙「何？」クルツ

大鷹「せっかく来たんですし、少し休憩されては？」

曙「遠慮しとくわ。まだまだやる事あるし」

大鷹「では、お茶だけでもいかがですか？」ニコ

曙「……1杯だけね」

提督「大鷹、俺にも」

大鷹「はいはい」

提督「……………」パラパラパラ

大鷹「……………」ペラツ     ペラツ

提督「……………」スツ     グシャグシャ

大鷹「シユレッダー」ペラツ     ペラツ

提督「…はいはい」スタスタ     グルグル

コンコンコン

提督「んー」グルグル

大鷹「どうぞ」パタン

ガチャ「失礼するわ」

B i s m a r c k 「提督、ちよつといいかしら」

提督「んお？どしたビス子」

B i s m a r c k 「アイオワを見なかった？探してるんだけど」



提督「アイオワあ？見てねえけど…」

大鷹「呼び出しましたようか？」

Bismarck「そこまでしなくて大丈夫よ。邪魔したわね」クルツ

提督「ちよい待ち。なんかあったのか？」

Bismarck「ん…単純に貸してたゲームを返して欲しいだけよ」

提督「あー…：…そうか。見かけたら伝えとくよ」

大鷹「私も覚えときます」

Bismarck「Danke. 頼んだわ」

提督「ちなみになんてゲーム？」

Bismarck「風来のシレン2よ」

提督「古っ！」

大鷹「…：…：…」ストツ ストツ

提督「横須賀、佐世保、舞鶴と」ストツ ストツ

大鷹「漫画が多すぎですよ」ストツ ストツ

提督「いいだろ別に…あれ」ストツ

提督「8巻がない…：…」

コンコン

大鷹「はーい」

提督「8巻どこだー？」ガサガサ

ガチャ「失礼しまーす」

鈴谷「提督ー、漫画返しに来たよー」

提督「んー。…：…あ？それお前が持ってたのか！おせーぞ返すの！」

鈴谷「提督がいつでもいいって言ったんじゃん！」

提督「いや言っただけど…さすがに半年借りっぱはダメだろ！」

鈴谷「知らないよ！」

大鷹「お二人共、程々をお願いします」

二人「っ……………」

提督「……………分かったよ」

鈴谷「……………りよーかい」

大鷹「よろしい。そういえば鈴谷さん、熊野さんは？」

鈴谷「熊野はモガミン達のところだよ。鈴谷たちの部屋はもう片付いたからね」

大鷹「そうでしたか。…鈴谷さん、熊野さんにこれを渡してもらえますか？」スツ

提督「んだそりや？メモ？」

大鷹「はい。以前厨房でご一緒した時に頼まれてまして。その時のです」

鈴谷「へー……………」

提督「大鷹と熊野と一緒に料理…ダメだ全く想像つかん」

鈴谷「鈴谷もだよ…」

大鷹「お願いできますか？」

鈴谷「大丈夫だよ。渡しとくね！」

大鷹「ありがとうございます」

鈴谷「んじゃもういくね！バイバイ！」

提督「おう」

大鷹「また」

提督「……………さっきのはなんのメモだったんだ？」トントントン

大鷹「サンドウィッチのメモです」グツグツ

提督「サンドウィッチい？あんなもんパンと具がありや出来るだろうに」トントントン

大鷹「出来る人からしたらそうですけど、できない人からしたらそ

うもいかないんですよ」グツグツ  
提督「ふーん……」パラパラパラ

コンコンコン

提督「あーい」

大鷹「どうぞー」

ガチャ「しつれいしまあゝす」

P o l a 「いゝ匂いですねえゝ」

提督「その声……ポーラか？悪いけど今手が離せねえからちよつと待ってくれー」トントントン

P o l a 「はゝい」

提督「……」トントントン

大鷹「……」コク

提督「どうだ？」トントントン

大鷹「上々です」

提督「うし」パラパラパラ

大鷹「……後はやつときますよ」

提督「頼んだ」コトツ

提督「……んで？どうしたポーラ？」

P o l a 「んーとですねゝそのゝお酒をゝ」

提督「ポーラ、前にも言つただろ。ここに酒はない。俺が飲まねえからな」

提督「それを覚えてないお前じゃないだろ？」

P o l a 「えーとおく……」

提督「……フウ。……ザラだろ？」

P o l a 「ピクツ

提督「凶星か。喧嘩つてわけじゃなそうだが……」

P o l a 「……ハイ。実は……」

提督「ザラを飲みの席に誘うだあ？」

P o l a 「ハイ……」

提督「素面で何しに来たのかと思ったら……」

P o l a 「何とかできませんかね……？」

提督「……とりあえず先に理由を聞かせてくれ」

P o l a 「ハイ……。ザラ姉様はいつも宴会の時、P o l a のことを気にかけてくれていて、自分が満足に楽しめていないと思うんです……」

P o l a 「だから、せめて年末ぐらいはP o l a のことを気にかけるに飲んで欲しいなって……」

提督「つまりは、たまには自分のことを気にかけるに羽を伸ばして欲しい……と」

P o l a 「ハイ……」

提督（お前が飲み過ぎなきやいいじゃねえか、っていうのは黙つてこう）

提督「そうさなあ……まあ、飲みに誘うのは簡単だろうな。その先だが……」

提督「とりあえずお前はザラがいい感じに酔うまでは飲むな」

P o l a 「ええ……」

提督「文句言わない。……まあ、気持ちいいぐらいに酔ったら後はトントン拍子だろ」

P o l a 「……？なんですかそれえ？」

提督「放つておいても上手くいくつてこと。ザラをいかに上手く酔わせるかが鍵だからな。頑張れ」

P o l a 「分かりました。P o l a 頑張ります」

P o l a 「それじゃあ失礼しましたあ」バタン

大鷹「……あんなテキトー言つて大丈夫なんですか？」

提督「……まあ大丈夫だろ。確かにザラは少しポーラを気にしすぎるくらいがあるからな。たまには羽を伸ばすのも必要だろ」

大鷹「……まあ、そうですね」

提督「だろ。……まあ後はポーラへのいい薬になれば御の字かな」  
ボソツ

大鷹「……?」

Zara「ポオオオラアア……!」ヒツク

Pola「提督にハメられたー!」

カチ コチ カチ コチ

提督「……」ズルズル

大鷹「……」チュルチュル

提督「……」ズルズル

大鷹「……フウ」

大鷹「……潮さんは?」

提督「宴会をまとめてる。…神鷹は?」

大鷹「ドイツ艦の皆さんに連行されました」

提督「まったくあいつらは…」

大鷹「提督は宴会に参加しなくてよかったですか?」

提督「ああ。俺飲めないから毎回後始末しかやることないし」

提督「それに今年は潮に任せてくれて言われたからな」

大鷹「なるほど…」

提督「お前こそ行かなくてよかったのか?」

大鷹「私は…」

大鷹「……」

提督「……?」

大鷹「年の終わりは、1番大切な人と過ごすって決めてますから

……」

提督「……ありがとな」

大鷹「いえ……」

ボーン　ボーン

提督「ん……新年か」

大鷹「ですね。では、」

提督・大鷹「あけましておめでとうございませう。今年もよろしくお  
願ひします」